

メンター通信(VOL. 14)

平成 24 年 10 月 30 日

とても暑い夏が、終わったかと思うと徐々に秋の気配を感じるようになってきました。大型台風が来たり、連休がきたり、運動会、秋祭りなどイベント盛りだくさんの時期になってきました。メンター派遣もたくさんあるシーズンになってきました。報告対象の7～9月はちょっとさみしい活動内容ですが、個々の内容を重点にお伝えしていこうと思います。



① メンター活動報告(7～9月)

| | 活動内容 | 延べメンター数 | 対象者数 |
|-----------|---|-----------|------|
| 7月3日、4日 | 家族支援プログラムサテライト①(安城) 障害特性講義・擬似体験 ピアカウンセリング | 1名 16名 | 16名 |
| 7月9日 | サポートブック研修(県センター主催支援者向け研修)派遣 | 2名 | 48名 |
| 9月8日 | 事例検討会② | 11名 | |
| 9月13日 | りんくすグループ相談会②(派遣) | 2名 | 5名 |
| 9月19日、20日 | 家族支援プログラムサテライト②(瀬戸) 障害特性講義・擬似体験 ピアカウンセリング | 3名 16名 | 16名 |

② りんくす名古屋主催「グループ相談会」報告

昨年度より、名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋主催の「グループ相談会」が開催されています。この相談会は毎回テーマを決め、昨年度は年6回、延べ46名の方に参加いただきました。今年度は年間5回を計画し、3回目が終了したところです。

(1) 年間スケジュール・主な概要

今年度は下記のスケジュールで行っております。

| | |
|--------|-------------|
| 6月7日 | 中学生の親対象 |
| 9月13日 | 生活リズムと身辺自立 |
| 10月11日 | 子どもとの関わり |
| 11月8日 | 学校について(低学年) |
| 12月13日 | 学校について(高学年) |

【概要】

時間：10時から12時まで
会場：りんくす名古屋
定員：10名
対象：名古屋市内中学3年までの保護者
担当：ペアレント・メンター2名

(2) グループ相談会のねらい

「発達障害の診断は受けたけれど、これからどうなるの?」「診断を受けたのは私の子どもだけ?」・・・。

相談機関や医療機関などで支援者と相談はしていても、「発達障害の子どもの保護者」という共通点を持つ仲間と出会ったり、先輩の話を聞いたりする機会がなかなか持てない方たちのために企画しました。お子さんが就学してから診断を受けた方や、仕事などで単発の相談会なら参加しやすい方たちなどが来てくださるといいなと思っています。メンターさんには、支援者とは違う角度から、参加される保護者の方たちにより身近な立場で相談にのっていただいています。参加された方たちが「話してよかった」「ちょっと元気になった」と言ってもらえるような会にしていきたいと考えています。

名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋
小川 真紀

(3) 担当より



このグループ相談会は、「メンターさんに活躍してもらいたいんだよね！」と2年前の夏、和歌山で行われた自閉症協会の全国大会の帰り道、和歌山駅まで向かうバスの中でりんくす名古屋の山口さん(現:くすのき学園副園長)よりいただいた話でした。それからトントン拍子に計画は進み翌年度よりスタートしました。最初は「みなさん来てくださるかな」「どんな相談が来るのかな」と不安な中でのスタートで、手探りではありましたが、毎回反省を重ねて今年度も継続して活動させていただいています。

ここでの主役は参加される保護者の方々です。お父様も参加されたこともありました。私たちメンターは黒子です。メンターは相談機関の職員ではありませんので、個々の相談内容に対して診断したり、指導したりすることはできません。なので、「この悩みを絶対解決させたい！」という方にはちょっと物足りないかもしれません。しかし、参加者共通の話題に対し、経験談や見聞きした話、「こんな裏技があるよ」といった、【ロコミ情報】はたくさん持っています。そんな「内緒話」をしつつ、参加者のみなさんがお友達になって横のつながりをもっていただく。これを目標としています。相談会が終わってから、玄関で長～～～立ち話されている方もあり、メルアド交換をしている方々もあり、「同じ境遇の仲間」を増やして行ってほしいな、と思っています。また、「ここなら遠慮なく泣いていいよ」と言った途端に、今まで我慢してがんばってきたお母さんが号泣されたこともあります。「今までがんばってきた」という見えない気持ちを共感できるのもこの相談会の特徴ではないでしょうか。

今年で2年目になったこの活動、担当も加藤から三井に引き継いでいる途中ですが、今回は加藤からコメントさせていただきました。来年度も色々一緒に考えていきたいなと思います。

つぼみの会 加藤 香

=====★=====★=====★=====★=====

③ペアレントメンター報告

はじめまして、私は岡崎市に在住しています。

普段の生活は、のんびりと地元の障害者団体の活動と保育士の仕事をしています。

私のペアレントメンターとしての活動としては、三河方面での家族支援サテライトに参加しているだけだと思います。およそ1グループ5名の参加者にメンターが2名という構成で、話し合いがおこなわれますので、経験や実績の乏しい私にとっては、安心してその場に居られます。ペアのメンターさんは、とても心強い存在です。

そして毎回メンターで参加して感じているのは、各メンターさんの知識や情報、経験が豊富なことです。仕事や自分の子育て(といっても、もう22歳になるのですが)に参考になる話が多い、ので、つい参加者目線で、聞いている時があります。また、参加されている保護者の方々も、お子さんの障害を受け入れ、前に向かって進んでいる方が多いなと感じます。就学についての悩みなども、よりよい方向性を求めて真摯に話し合いに参加されています。そんな保護者を目の当たりにして、私はここでも、ただ聞くことしかできません。いろいろな支援や情報の提供は、ペアのメンターさんが経験を交えて的確なアドバイスをされます。

もし、私がメンターとしての何らかの役割があるとして、みなさんにお話しする時、自分の失敗談をいかにおもしろく話すかということをお心掛けています。それは、楽しく子供と過ごしてほしいという思いからです。せつかく何かの縁で巡り合った親子です。自分の子供をずっと好きでいてほしい・・・細く長く決して途切れることがないように(息切れしないように)カッコよくいえばツナグってことでしょうか。

最後に、日々ペアレントメンターに関わってくださるすべての方に感謝を込めて

特非) 愛知県自閉症協会 ・つぼみの会 Sより

=====★=====★=====★=====★=====

④メンターコメント「北から南から」

第3回は応用研修Ⅱでご登壇いただいた北海道の野田さんです。

「北海道は、いよいよこれからです」

愛知県自閉症協会・つぼみの会 ペアレントメンターの皆様、お元気ですか？

北海道自閉症協会札幌分会の野田です。毎号、通信を楽しみにしております。皆様のエネルギーと愛溢れる活動が紹介されている「メンター通信」から、いつも元気と勇気を頂いております。

私ごとですが、2011年、2012年と貴会開催のペアレントメンター応用研修に参加させていただきました。その節は大変お世話になりました、ありがとうございます。

応用研修では、ペアレントメンターの講座が「受講しておしまい」ではなく、次の学び、次の活動へと着実に繋げる1つのステップとして非常に重要であることを痛感しました。実践する愛知のみなさまや講師のみなさまの取組みに刺激をうけ、「いつか北海道でも実現する、それが愛知のみなさまへの恩返し」と、北海道での取組みを思い描いてきました。そうした中で、井上先生、吉川先生、つぼみの会の加藤様のご助言を頂戴し、いよいよ北海道でも動き出すこととなりましたので、ご報告させていただきます。

ここまでたどり着くには、夢や妄想が錯綜しました。迷走していたと思います。ですが、北海道教育大学旭川校の安達潤先生の大きな大きなご支援を頂戴し、その夢は北海道自閉症協会にとどまらず、JDDネット北海道の中に位置づけられることとなりました。現在、安達先生を柱に運営協議会が設立され、道内4つの地域（札幌、旭川、函館、帯広）のバックアップ体制を構築中です。実質の動きにはまだまだ時間が必要ですが、「ゆっくり、でも着実に」をモットーに、北海道のニーズにそった活動を模索しながら進めていきたと思っています。加藤様はじめ愛知のみなさま、どうか温かく見守ってください。そして、時には（しょっちゅうでも構わないです）叱咤激励、厳しくご指導ください。そしていつの日か、愛知のみなさまと交流会や事例検討会、実践発表会などができる日がくることを思い描き、、、ああ～～、また妄想が始まりそうなので、これにて失礼致します。

今後もみなさまのご活躍を糧にしていきます、どうぞ末永く、宜しくお願い致します。

北海道自閉症協会札幌分会 野田孝子

⑤今後のお知らせ

1. 応用研修Ⅳ(平成25年1月12日～13日)の〆切が迫っています。愛知のメンターさんで参加/不参加の連絡をしていない方は事務局まで早めにご報告下さい。他県メンターさんも是非ご参加下さい。なお、1月12日は公開講座になります。公開講座のご案内については当会HPにてご確認上、お申込ください。
2. 今年度4回目の事例検討会は平成25年2月20日に決まりました。通信と共にご案内をお送りします。
3. 10～12月の活動報告書提出の締め切りについては、1月12日にさせていただきます。期日までに(ない場合も)ご連絡を御願致します。

その他、ご不明な点、ご質問などは事務局加藤まで何なりとご連絡ください。

【各地の研修風景から 第4回】 鳥取県



第4回は井上先生の本拠地鳥取県です。

井上先生が鳥取大学に移られてすぐの2008年度に全国のモデル事業として旭川とともに事業が取り組まれました。加藤以外のあいちスタッフを「井上先生がいらっしゃるから！」と、県外に送りだした最初の土地でもあります。

鳥取の井上です。今年は県の発達障害者支援整備事業の「目玉」としてメンター活動の活性化が位置づけられています。そういった意味で今年の県の整備事業の会議の委員にもメンターが複数入っています。親御さんが県の会議に入ることは今までにもありましたが参加メンバーが増え、専門家や行政と同じ委員としての立場で意見を表明できるのはすばらしいと思います。

鳥取は人口的には小さな県なので行政と専門家そして親御さんとの距離感が近いのが特徴かと思います。夏には県庁から課長さんを始め若手職員の方が自閉症協会キャンプに泊まりがけで参加して頂けるので「非公式臨時メンター会議」も開催できるという土地柄です。ただ横に長い分、地域差があります。私のいる西部地区（左の端）では人口が多い割に共働きの方が多くてメンターの数が足りません。もう一度、養成講座を開催できたらと思っています。

サポート活動の種類によってはある程度の予算措置が必要になってくるのですが、行政では積算根拠がなかなか難しいようです。このあたりは各地で情報交換できればと思っています。

鳥取県は県庁HPでもメンター運営についての情報を公開して頂いており、メンターネットワークボード (http://pmjapan.umin.jp/Parent_Mentor_Japan/index.html) からリンクできます。是非、他の地域も情報を教えてください。

【井上 雅彦】

愛知の安井です。私が初めて県外へ一人で出かけたのが鳥取でした。「加藤さんの代わりなんて無理～!!」と思いつつ、加藤さんに事前資料をいただき、ドキドキしながら何度も読み返しながら電車に乗って行ったのでした。研修では井上先生にたくさんフォローしていただきながら愛知でのメンターの活動の様子などを私からはお話をさせて頂きましたが、みなさんとても熱心で、メンターとしての大先輩の方もたくさんいらっしやう、私の方が勉強させて頂きました。鳥取県は細長～い県で、西部・中部・東部に分けられているそうです。行政・支援センターの方たちは東へ西へ走り、メンターの方たちは地域に分かれて活動をされているとのことで、県によって活動に特色があるんだなあ…と感じました。ただ心残りなのは…鳥取砂丘に行く時間が無かったことです!!今度はぜひ観光で訪れたい場所です。

【安井 貴子】

鳥取の小松です。その節は安井さんに大変お世話になりました。鳥取は「陸の孤島」とも言われ、アクセスの悪さは日本一かもしれません。東京へは鳥取、米子の二つの空港から一日5便くらい往復しているのですが、東京出張が一番らくちんなのです。(やっぱり島!?) そんな鳥取ですが、安井さん、加藤さんといった愛知のメンターさんには毎年のように鳥取にお越しいただいて、愛知のメンターさんの活動について教えていただき、ありがとうございます。おかげさまで鳥取県が養成したメンターと、その前に日本自閉症協会の委託を受けて鳥取県自閉症協会として養成したメンター、それ以前に他県で養成研修を受けたメンター全部合わせて55名が登録する大所帯になりました。

安井さんがご紹介くださったとおり、鳥取県は横に長く、しかもアクセスが悪いので、東部・中部・西部の圏域に分けて活動しています。圏域によりリソースも違いますし、圏域ごとにリーダーメンターを置き、メンターさんのフォローなどもしてもらっています。これらの鳥取県の状況は13号で杉本メンターが執筆していますので、もうご存知ですね。今後も継続研修や、愛知で開催されるステップアップ研修など、鳥取のメンターが愛知のメンターさんにお世話になることがたくさんあると思いますが、どうぞよろしくお願いします。

ところで、安井さん！チャンスがあれば鳥取へおいでください。東京の友人に鳥取砂丘にラクダがいると話したら、「砂丘って、砂漠なの？サソリもいるの？」と聞かれましたが、サソリはおりません。ラクダは決して野生ではありません。安全な砂の地面ですので、愛知のみなさんもどうぞお出かけください。ただし、くどいようですが、陸の孤島なので、名古屋からですと4時間？くらいかかると思います。

【小松 しのぶ】

「今回のゲストコメンテーター」

みなさんこんにちは。日本発達障害ネットワーク（JDDNET）事務局長の加藤と申します。名古屋には毎年メンター養成研修で伺わせていただいております、伺うたびにつぼみの会の加藤香さんに愛知グルメとの仲人をしていただいております（いつもありがとうございます！）。これまで食べた名古屋グルメは、山本屋の味噌煮込みうどん（吉川先生）、味噌カツ、手羽先、どて煮、チャオのあんかけスパゲッティ（加藤香さん）、きしめん（氏田 JDDNET 前副理事長）、蓬萊軒のひつまぶし（吉川先生）、天むす（加藤香さん）コンパルのアイスコーヒー（加藤香さん）、コメダのシロノワール（氏田 JDDNET 前副理事長）、浪越軒の鬼まんじゅう（加藤香さん）などなど。ちなみにカッコ内はご馳走になった方々のお名前です（ごちそうさまでした！）。ちなみに次に狙っているのが、鉄板ナポリタンスパゲッティです。あといつかは喫茶マウンテンに巡礼に行きたいと思っております。

さて、JDDNET では今年度「ペアレント・メンター コーディネータ養成研修」を企画し、6月30日に名古屋にて開催しました。また11月3日には東京でも開催します。

2005年からペアレント・メンターの養成が始まり、今では多くの地域でペアレント・メンター養成講座を修了された方々が活躍されています。一方で、養成講座を修了された方がいる地域でも、なかなか活動に結びつきにくいということがあるということも聞きます。

今回の JDDNET ペアレント・メンター コーディネータ養成研修は、ペアレント・メンターの方々が生育を邁進している親御さんたちを照らす灯台のような存在として地域活動を展開していただくために、行政の方々や、発達障害者支援センターの方々にコーディネーターとして一緒に考えていただく機会として企画されています。地域の実情は様々だとは思いますが、「地域で子育てを応援する」という思いはどの地域でも同じだと思います。地域で子育てを応援するためには、行政がその地域の子育て応援体制をどう考えていくかが重要ですし、その体制の中でペアレント・メンターの活動を考えることが必要なのだろうと感じます。JDDNET ペアレント・メンター コーディネーター研修がそのお手伝いになれば素敵だなあと期待を込めて思います。

今、この文章を書いている私は風邪をひいて声がガラガラ状態です。急に寒くなったせいでしょうか、周りにもマスクをしている人が多いように感じます。みなさんも体調に留意されてお過ごしくださいね。

・・・あっ、1つ宣伝させてください。12月1日に JDDNET 体験博覧会ワークショップを、12月2日に第8回年次大会を、共に福島大学にて開催します。ワークショップでは「ペアレント・メンター入門」と題して、日詰先生と加藤香さんにペアレント・メンターについてのレクチャーをお願いしております。その他いろいろなプログラムが用意されておりますので、ぜひ多くの方にお越しいただけたらと思っております。みなさんのご参加を心よりお待ちしております！

日本発達障害ネットワーク 事務局長 加藤永歳
JDDNET HP <http://jddnet.jp/>

第 14 回集計をふまえて(吉川 徹先生より)

愛知県、全国のペアレント・メンターの皆様、日々の活動お疲れ様です。昨年度より、愛知県ペアレント・メンター等活動推進連絡会の中にワーキンググループを設置して、「愛知県ペアレント・メンター倫理規定」の作成作業を進めていただきました。今年になってようやくまとまり、この通信と一緒に皆様にお届けできることとなりました。ワーキンググループの委員長をお務め下さった竹澤大史先生ほかメンバーの皆さまに厚く御礼を申し上げます。全国的にもまだ倫理規定を設けているところはほとんどなく、手探りでの制定となりました。

ペアレント・メンターの活動の中で、心がけていただきたい点はいくつかありますが、守秘義務に関しては、日頃から細心の注意を払っていただきたいと思っております。この倫理規定の中でも特に秘密保持などに関して、詳細に触れていただきました。相談者の秘密を守ることが最優先であることはもちろんなのですが、一方でメンター同士の技術の向上や、難しい事例への対処について知恵を集めていくことなどのため、一定の約束のなかで、お互いの経験を共有していくことも必要です。今後とも事例検討会、活動報告などにあたりましても、この倫理規定を念頭に、情報の保護の観点からも安全に進めていただければと思います。

一方でペアレント・メンター活動に伴う報酬などに関しては、まだまだ議論が半ばであり、今回の倫理規定には明確な形で盛り込むことはなされていません。基本原則の中に「営利的」目的のために活動を行わない、として規定されていますが、これはメンター活動で一切の報酬を受け取ってはいけないということではありません。例えば多くの医療機関は営利を目的としていませんが、働いている職員は報酬を受け取っており、サービスの利用者が費用を負担することもあります。あくまでも利用者の利益を最大の目的とし、利潤を上げることを目的としてはいけないという規定です。ペアレント・メンター活動と報酬については、今後更に議論を続けていく必要があると考えています。

この倫理規定に関しましては、まだまだ内容にも不十分なところ、適当でないところもあるかと思えます。今後、愛知県でのメンター活動が更に広がっていくのにあわせ、改訂を重ねていきたいと考えております。倫理規定の内容などに関して、ご意見、ご要望などございましたら、ぜひ連絡会までお寄せ下さい。

愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科 吉川 徹

< 編集後記 >

夏休みが終わると同時にあっという間に 10 月になってしまいました。衣替えもしなきゃ、あれもしなきゃ、これもしなきゃ、、、え！年賀状？！と慌しく過ごし、夜にはバツリ布団に倒れこんでいる毎日です。みなさまはきつと計画を立てて生活されているんだろうな・・・と、ちょっと反省中の加藤です。

12 号の編集後記でコメントした「受験生の母」として高校見学に娘と行くのですが、つついフレーバーの子をキョロキョロ探してしまう・・・そんな楽しい高校見学をしています(そのうち報告します)。息子は 18 歳到達を前に「障害認定区分」の手続きにかかります。制度がかわって「モニタリング？」など増えてしまい、こちらでもキョロキョロしながら進めています。こちらも体験談をリソースとして整理しておきたいと思えます。

朝晩、冷え込んでくるかと思えます。みなさま、お体には十分ご留意くださいませ。

発行：愛知県ペアレント・メンター等活動推進連絡会

編集：特定非営利活動法人 愛知県自閉症協会・つぼみの会

〒460-0013 名古屋市中区上前津 2-14-25 上前津中央マンション 202号

TEL/FAX 052-323-0298 E-Mail: tubomi-aa@nifty.com

編集担当者：支援部 加藤 香